

感染管理担当者に求められるもの（目標4）

福島県立医科大学 感染制御・臨床検査医学 金光敬二

現在、多くの医療施設で、手術部位感染も含めて多くの患者がM R S A感染に罹患しているのは周知の事実です。なかでもM R S Aによる縦隔洞炎、肺炎、敗血症などでは予後が悪く大きな問題になります。そして、M R S Aの主な感染経路は接触感染であることがわかっています。そこで我々は、「医療関連感染症の防止」を行動目標とし、手指衛生の徹底、標準予防策・接触感染予防策の強化、環境と器具の清浄化を3本の柱にしています。ところが、これらのこととは真新しいことではないのに、なかなかうまくいかないという相談の声を聞きます。その内容は、ポスターを作製したのに手指衛生の遵守率が低い、標準予防策が理解されていない、スタッフの行動が統一されていない、などです。

どこの施設の感染管理担当者も頑張っているのですがなかなか前進できません。それどころか、自分が正しい事を言っているのに周囲が理解してくれないので感染管理担当者は疲弊して仕事を辞めてしまう人すらいるのが現実です。感染管理担当者とそれ以外の医療従事者では感染対策に対する知識だけでなく、思い入れも違うのは当然でしょう。研修会に参加しただけで同等になるはずもありません。目標を達成するには、我々のコミュニケーションスキルの向上が不可欠です。時間はかかるかもしれません、もっと話し合ったら少しずつ理解しあえます。キャンペーンの一つの意味がそこにあります。